

2024 年度 学校法人 三幸学園 仙台医療秘書福祉&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 真田 美陽

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 阿部 琢也

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、2024 年度は本校の育成像としても掲げ、社会・業界に求められる人材の育成に努めた。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

■学校運営について

2024 年度は全体会議だけではなく Teams を活用し、タイムリーに方針・目標を全体に浸透させ、全教職員一体となって生徒指導に取り組むことができた。

また、医療秘書科では医療事務シミュレーションコンテストの姉妹校全国行事が初開催され、生徒、教員双方にとっても姉妹校との交流機会や学びのアウトプット、現場での対応やご意見を頂き、成長機会となった。

全体的には生徒募集で大きく苦戦した 1 年となったため、業界や学校の魅力を伝え、生徒募集を回復させることが大きな課題である。

さらには、WEB・IT 系の新学科(WEB デザイン・IT 科)が設立され、校名も変更となり、新たな分野での学びを提供することとなったが、退学者もおらず、生徒たちの授業満足度も高い授業を提供することができた。

一方で、その新たな分野での就職先の新規開拓が今後の課題となっている。

■教育について

2024 年度は三幸学園が掲げる分野の人材育成像「相手のこうしてほしいを理解し考え動ける人材」を軸に生徒指導を行った。特待生であるトップ層へは特に「相手のこうしてほしいを理解し考え動ける」ようになってほしいことを伝え、主体的にクラスメイトや友人、教職員や学校のために行動する姿が見られた。しかし、生徒たちの主体性を尊重するあまり、根拠を持った納得指導ができない場面もあった。

1 年生は未来デザインプログラムの授業のアプリ導入に伴い、クラスの状態や授業へのやる気を数値で測ることができ、担任がタイムリーにクラスの状態を把握することができた。退学率は低減したものの、退学理由は変わらず目標喪失での退学が多く、目標喪失になる原因は人間関係悪化が目立った。

教職員の対応だけではなくカウンセラーの利用をしやすい環境設定を行い、早期退学防止に努めた。

2024 年度退学率 5.7%（2023 年度退学率 7.2%）

内、目標喪失理由 約 46%

様々な生徒がいる中でどこまで関わりサポートするのが課題だと感じる。

■その他

より良い授業を提供するにあたり、施設・設備の充実を図っていく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

■学校運営について

- ・学生募集に苦戦した 1 年であったが、高校ではどのような分野を希望する生徒が多いのか。（真田副校長）
- ・飛鳥未来高校は専門学校を希望している生徒が多く、製菓・動物・IT 系の専門学校を希望する生徒が増加傾向にある。本校に対して、IT のイメージがまだ湧いていないように感じるので、IT 分野についてより打ち出せると良い。

一方で昨年から大学希望者（心理学分野）も増えてきている。

20%～27%の割合で就職を希望する生徒もいる。

製菓を希望する生徒は体験をきっかけに魅力を感じているのではないかと。（高清水委員）

- ・製菓や IT のように成果物が目に見えるものに魅力を感じる高校生が多くなってきているように感じるため、介護や医療などは職業のやりがいや安定性を継続して魅力を伝え、成果物があれば披露するような機会を今後増やしていく。（真田副校長）

■教育について

- ・人間関係での悩みや配慮やメンタルケアが必要な生徒が増えてきた傾向だが、職場での職員のメンタルケアはどのようにされているのか（本田さん）
- ・ニュースでもカスタマーハラスメント、パワーハラスメントが話題になっている。
介護職員も普段ストレスを抱えていることが多いため、誰にどんな話をするのかわきまえて言葉を選ぶようハラスメント研修を実施した。オンライン研修も導入し、テストや研修内容に対してどう感じたか振り返ることを重視した。
また、カスタマーハラスメントに関して、サービスを提供する立場として利用者様と向き合うこと、それでも対応が難しい場面があれば自身が後ろ盾となることでより安心を感じられるようにした。
年 2～3 回の個人面談を実施し、学校と現場のギャップはないか、学校への要望はないかなど 1 時間ほど時間を取るようにしている。（佐々木委員：介護福祉科）
- ・個別面談の中でその子の考えをヒアリングし、安心感を与えることが大切だと感じたため、そういった生徒指導ができるよう教職員の指導力向上の強化をしていく。（本田さん）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・本校では「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成人材像に掲げ、指導しているが、教職員が導くことよりも教えてしまう傾向にあること。
- ・新学科においては教職員の業界知識が乏しいことや連携する企業との関係構築が不足していることがあるため、企業訪問や積極的な情報交換が必要。

② 今後の改善方策

- ・教職員がすぐに答えを与え、方向性を決めるのではなく、まずは生徒の意見を傾聴し、導くような投げかけをすることが大切。そのために、ヒアリングや面談対応の担任力向上研修を実施予定。
- ・新学科の行事の際に、県内の関連企業をお招きし、関係構築に努めたため、今後も継続的に連携を図る。
- ・教職員の知識向上のために、関連企業へ職場見学を実施し、そこでの学びを教務や広報面で活用していく。

③ 特記事項

- ・保護者様に学校理解をしていただくため、オンライン、対面の双方で入学前説明会を開催した。
- ・保護者様へ担任からのコメントと写真を掲載し、クラスだよりを年度初めに郵送した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・カスタマーハラスメントやAI化、多様化も加速する中で、どんなスキルが求められるのか。（本田さん）
- ・カスタマーハラスメントについて、初期対応や接遇が防止するカギとなる。患者様は経験に限らず一職員として「できて当たり前」という認識があるため、接遇や社会人マナーは徹底して研修するようにしている。新卒の職員は業務での躓きはほとんどないように感じる。（阿部委員長：医療秘書科・診療情報管理士科）
- ・コミュニケーションスキルが重要だと感じている。業務がわからない、難しいというときに周りに聞くことができず苦労した。先輩職員から、まずは人に好かれるような人柄・マナーを身に付けることを優先するよう指導いただいた。教えたくなる・助けたいと思われるためにも、まずはコミュニケーション力やマナーなどのビジネススキルが重要である。（武田委員：診療情報管理士科）
- ・人手不足の業界なのでマンパワーに限界が生じたときに、何ができるのか、何かないかと考える人材に育成できるよう意識している（佐々木委員：介護福祉科）
- ・人材不足の中で、人の強みは考える力である。経済産業省からも人手不足が課題になっているため、現状では AI に仕事を委譲していると発信されていた。AI に仕事が奪われないためにも、現場で働いている人だからこそ拾い上げられる情報や課題を認識・判断することの重要性が高まってくるため、考える力が

- 今後さらに求められている。(武田委員:診療情報管理士科)
- ・2025 年度新入生から集めたアンケートでも創造力や課題対応力に課題を感じている生徒が多いという結果になった。(本田さん)
 - ・考えさせると考えない傾向もあるので、そこが難しいポイントである。(阿部委員長:医療秘書科・診療情報管理士科)
 - ・教員側から「考えることの重要性」を問う声掛けが必要である。(本田さん)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・人事制度が変更になったため、認識統一や制度浸透を図ることが必要。
- ・生徒指導においてはハラスメント防止のための研修や多様化する生徒への新たな取り組みを実施することができたが、退学防止や学校生活への復帰という本来の目的を達成することができなかったため、目的に沿った運営ができているか検証、見直すことが重要。
- ・IT ツール活用による業務効率化は図れているが、使いこなせるメンバーの育成が重要。

② 今後の改善方策

- ・人事制度については面談等を通して、認識統一を図り、必要に応じて会議内で周知と適切なフィードバックを実施する。
- ・ハラスメントについては研修を実施し、事例を共有しながら防止に努める。
- ・新たな取り組みについては定期的に効果検証や目的理解を浸透させ、運営方法の見直しを実施する。
- ・システム化についてはレクチャーや研修を実施し、引き続き業務効率を図るとともに、人材育成も意識する。

③ 特記事項

- ・全体会議でのハラスメント事例の共有や注意喚起を実施した。
- ・教室に入ることによる不安を抱えている生徒を対象とし、教室以外の学内別室にてオンラインでの同時双方向授業受講を実施した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・IT ツールをどの世代においても使ってもらうために働きかけていることはあるか。（本田さん）
- ・医療安全の部署にいが、情報処理において手作業など古典的な手法を採用していた。
しかし、システムを導入したことによって時間をかけていた作業が、10分で完了できた。その分残業時間を削減できるというメリットを感じ、職員から感謝された。機能が同じで媒体が変わっただけでは誰も使用しない。スマートフォンも頑丈さや利便性など優位性を人々が認識したことにより、利用率が高まった。
（武田委員：診療情報管理士科）
- ・IT ツールの浸透には長いスパンが必要。「今までこうやっていたから変える必要はない」という移行できない

方にどう働きかけるかが難しい。(阿部委員長:医療秘書科・診療情報管理士科)

- ・クリニックでも 60 代の職員でパソコンスキルが優れている方もいるので自身も質問するようにしている。当院ではWEB予約を導入しているので、入力方法がわからない患者様から、電話ではだめなのかとお言葉をいただくことがある。伝える側の言葉がけによってメリットが伝われば変わっていくのではないかな。(武内委員:医療秘書科)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・授業の質向上のための、授業見学（自己研鑽）や教職員向けの研修が不足している。
- ・持病や障がい等のある生徒が授業に参加できず、目標喪失してしまっている。

② 今後の改善方策

- ・教職員の授業力向上を図るため、授業見学の促しや教科会の中で授業アンケートの振り返りを実施する。
- ・持病や障がい等のある生徒が授業に参加できるよう、オンライン授業を検討していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・飛鳥未来高校にはネットコースがあるかと思うが、どのような教育や授業を提供しているのか（本田さん）
- ・通信制高校に限らず、登校に困難を抱える生徒は授業回数のうち、10分の6であればオンライン授業の

受講が認められている。レポート等学習成果がわかるものを提出させている。

本校では月 1 回、オンラインで有名人からの授業を受講、工場見学など他校の生徒と交流する機会を設けている。

受講期限を守れた、交流できたなどその生徒に合わせて、やったらできたという成長実感を得られるように教育の機会を提供している。(高清水委員)

・オンライン授業は持病等の理由で登校が難しい生徒が主に選択している。学園の方向性は今年度の課題をもとに決定していく。オンライン授業を通して業界理解や知識量等、現場とのギャップが埋められるよう指導方法は検討する。(真田副校長)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・学校として掲げていた「卒業までに内定率 100%」という目標は達成されなかった。
- ・生徒の資格取得への意欲低下に伴い、資格の必要性や重要性の指導体制が不足している。

② 今後の改善方策

- ・就職先の選択肢が広がるよう、新規開拓訪問を積極的に行う。
- ・上級生や卒業生の講話機会を設け、資格の重要性や今の学びがどのように活かされるのか等を聞く機会を設ける。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・資格取得に対して年々生徒の意欲が低くなってきていると感じているが、現場では資格に対してどのように感じているか。（本田さん）
- ・履歴書では資格取得欄を最初に確認している。取得級や取得数というよりは、努力成果、努力できる人なのかどうかを判断する指標となっている。現場からすると取得している資格によっては、安心材料や配属の判断材料にもなっている。どれだけ勉強してきたか、頑張れるかという意欲が見られるので、取れる資格は取っておいた方がよい。一方で介護福祉士は施設基準に関わるので、資格取得数は重視されていないように感じる。（阿部委員長：医療秘書科・診療情報管理士科）
- ・専門学校の場合、資格を取りたいから進学するというよりも、入学しやすさ、楽しそうという入学のハードルの低さを理由に進学する生徒が本校には多い。（高清水委員）
- ・入学のハードルが低いということは確かに魅力に感じていた。自身がもう一度入学するのであれば面接や就職を目的に自分が学びたい資格や今後の社会人生活を見据え、資格を取っていききたいと思う。上位級を取得していることがアピールになるので、資格取得は重要だったと感じる。しかし、生徒の立場から考えると資格に対して取捨選択する気持ちもわかる。（武内委員：医療秘書科）
- ・医療事務は、生徒が資格取得したことに対して資格手当がないことから価値を見い出せていないのではないかな。基礎知識があるかどうかの安心感があるので、魅力・メリットを感じられると良い。（阿部委員長：医療秘書科・診療情報管理士科）

・実際に現場で力不足を感じることで、資格の必要性が伝わる。学生時代は働きながら検定取得できればと考えていたが、実際に働いてみると、その両立は非常に難しいと感じる。資格取得については生徒が教員に魅力を感じ、自分のなりたい姿と一致することも一つのやり方ではないか。(武田委員:診療情報管理士科)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・生徒の相談体制に関して、学科を跨いでの担任制となってしまったことにより、一人の担任が抱える生徒の人数が増え、個別に合わせた対応が行えなかった。また、担任の授業数を減らせず生徒をサポートする時間の確保が適切に行えなかった。
- ・保護者へ適切なタイミングで連絡ができず、協力体制を仰ぐことができなかった。

② 今後の改善方策

- ・担任が抱える一人当たりの生徒数をみて担任配置し、授業コマ数を減少させ、生徒サポートができる時間の確保を行う。
- ・保護者対応の研修を行い、適切に対応できるスキルを身に付ける。また、アプリを活用し学校やクラスの状態を保護者も確認できるツールを導入する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・保護者と本人との関係性によって、保護者連携に迷いが出るが多くなったが、高校ではどのように連携をしているのか。（本田さん）
- ・高校でも保護者対応は苦労している。教員側の対応次第でトラブルにつながることもある。生徒からの相談や家庭にお願いすることについて文部科学省から発信されている動画をもとに、事例研修を実施するようにしている。希死念慮や自傷行為がある場合、生徒が保護者に共有してほしいという要望があったとしても、理由をヒアリングし、保護者に伝えている。担任一人で抱え込まないようカウンセラーなど適切な支援先に相談するようにしている。

支援先として社会資源にどのようなものがあるのかの確認も大切だと感じる。(高清水委員)

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・インターネット、Wi-Fi 環境が非常に不安定で ICT を活用した授業に支障をきたした。
- ・医療機関実習の実習先確保ができず、時期をずらした実習を行った。

② 今後の改善方策

- ・本部を通してネットワーク環境の改善を図る。
- ・実習先の確保のため1年以上前から依頼掛けを行う。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現場でも個人情報扱う機会や IT ツールの活用が増えてきていると思うが、環境整備はどのようにしているのか。(本田さん)
- ・入職後、まずは最初に Wi-Fi 環境の整備に着手したが、介護業界は未だに紙媒体が主流になっている。実習先でも実習に来る生徒は実習日誌をすべての行を埋め尽くし、提出してくる。現場はどれだけ要点をまとめて相手に伝わるかが大事であるため、最後の行まで提出することが目的になっていると求められるスキルとは異なってくる。学校現場も環境を整え、タブレットやPCで実習記録を記入できるようにしてほしい。(佐々木委員:介護福祉科)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・入学後のアンケート結果より、オープンキャンパスでの雰囲気や親しみやすさに好印象を感じ、入学を決める生徒が多いため、日々の学校運営でもその雰囲気を感じられる働きかけをすること。
- ・新学科については実績がなかったため、姉妹校事例や実際の教育成果を伝えるためにも、勉強会や授業見学等を実施すること。
- ・留学生のオープンキャンパス参加者も増えつつあるため、対応メンバーの育成が課題。

② 今後の改善方策

- ・入学後のギャップを感じさせないためにも、在校生スタッフの育成や日々の学校運営と募集活動での齟齬が生まれないような取り組み、学科勉強会の実施や学校運営を意識する。
- ・新学科の授業見学の実施や行事の見学、また姉妹校事例を共有し、知識向上の機会を設ける。
- ・日本語学校への訪問を行い、留学生の動向や受け入れについて把握する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・オープンキャンパスの在校生スタッフが入学後のギャップを埋めるためにも、どこまで学校生活を伝えたらいいのか迷っているという話を聞くが、現場にて採用活動時など職員の方には事前研修等実施しているのか。（本田さん）
- ・オープンキャンパスは学生募集なので、多少の誇張は良いのではないかと。雰囲気は自分で現場に足を運んでリアルを感じていけばよい。在校生スタッフから魅力を伝えてもらうことは賛成である。入学後のギャップは必ずあるので、授業見学や在校生との交流を通して、ギャップを最小限にすると良い。当院でも実際に見学予定の学生像に近い職員に話を振る、事前に話す内容を職員とすり合わせておくという準備はしている。模擬授業などを実施してギャップを埋めることも大事ではないか。（阿部委員長：医療秘書科・診療情報管理士科）
- ・オープンキャンパスで在校生スタッフをしていたが、来校者からの質問は学ぶ内容の割合が多かった。休み時間の過ごし方やアルバイトや勉強の両立、雰囲気など在校生から伝えてあげられるとよい。（武内委員：医療秘書科）
- ・学生の様子や日常を届けるようなコンテンツをSNSで発信してはどうか。（阿部委員長：医療秘書科・診療情報管理士科）

- ・投稿されたくない生徒もいると思うが、生徒同士で撮影した写真の方が雰囲気は伝わりやすい。
(武内委員：医療秘書科)
- ・採用活動であれば、休日や必要なスキル、実績、残業時間などマストで伝える内容は押さえてほしいが、その他は脚色しても構わないと思う。学校においては学べる内容や資格取得、就職先がそれに該当するが、特定の病院に就職できると聞き、自分はその医療機関から確実に求人が来て就職できるものだと認識し、ギャップを感じた経験があるので、伝え方は正確であってほしい。(武田委員：診療情報管理士科)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・引き続き、個人情報保護や関係法等において、法令順守の教職員意識の向上を図る。

② 今後の改善方策

- ・個人情報保護の観点では、事例共有等を行い、法令順守の意識づけを徹底する。
- ・セキュリティ対策等、正しい知識や情報を教職員へ発信し、法令順守の啓蒙を行う。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・本校でも多くの個人情報を取り扱っているが、現場では個人情報保護の観点では、どのようなことを意識しているのか。（本田さん）
- ・個人情報に関する書類などは施錠できる場所に保管、机上に置かない、閲覧できる職員を限定するなど対策している。職員同士の会話内容であっても、利用者様の耳に届いていることがあるため、注意が必要である。（佐々木委員：介護福祉科）
- ・個人情報は患者様の目の届かない場所に保管する、シュレッダーで処理するなど工夫はしている。立ち入り禁止区域が明確ではないので患者様によっては、個人情報に関する書類が置いてある場所に足を踏み入れてしまうことがある。（武内委員：医療秘書科）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・生徒へのボランティア活動の奨励も介護福祉科では徐々に実施ができているため、今後は案内する学科を増やし、活動を広げることを検討する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・学校へ案内のあったボランティア活動については積極的に告知を実施する。
- ・関係の深い企業や施設へは学生のボランティア活動について提案等を実施する。

③ 特記事項

- ・近隣やつながりのある保育施設の園児を招き、保育行事を実施した。
- ・検定運営や研修実施の際に協会へ施設貸出を実施した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・コロナウィルスも 5 類へ移行し、しばらく経過したため、ボランティア活動が徐々に増えてきている印象だが、実際に現場でも増えてきているのか。また、高校生はボランティア活動をしているイメージもあるが、実際はどうか。（本田さん）
- ・診察室に案内する、移動の際の補助といった内容でボランティアは募集しているので、ぜひ学生に案内いただきたい。（武田委員：医療秘書科）
- ・高校生は調査書の内容にも記載されるので、積極的にボランティア活動に参加している生徒が多い。IT分野はチラシの作成などボランティアの需要があるのではないか。（高清水委員）
- ・実際にボランティア募集をしたが、学生の応募はなかった。可能ならチラシの作成や動画編集を依頼したい。利用者の方が施設を自分で選択するというよりも、そのご家族が選択する傾向があると感じているため、視点を利用者のお子さんや孫の世代から選ばれるようなポスターなどの作成で連携していきたい。（佐々木委員：介護福祉科）

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

- ・留学生が入学するにあたり学費ネックが多く、卒業後の就職を前提とし、学費支援をしていただける施設や経済支援制度等を探すこと。
- ・学科によっては日本語能力だけではなく、PCでの日本語タイピング能力も必要になるため、日々の授業サポート体制の充実だけではなく、入学前にも求められる能力について説明を行うこと。
- ・留学生の受け入れ先(実習・就職先)の確保や卒業後のサポートについても整えること。

② 今後の改善方策

- ・施設等訪問の際に留学生の受け入れ状況や学費支援についてのご依頼やヒアリングを行う。
- ・日本語学校との連携を強化し、留学生の受け入れについて学校として教職員の理解を高められるよう訪問の強化や教職員研修を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・本校では 2026 年度から留学生を対象とした学科が新設され、オープンキャンパスに留学生の来校なども増えてきているが、現場にも外国人の採用などの動きはあるのか。(本田さん)
- ・外国人の患者数は増加している印象はない。医師は外国人の方がいるので、外国人人材の増加傾向は感じている。(武田委員:診療情報管理士科)
- ・医療スタッフの採用実績はないが、今後国際交流や留学生人材が増えることは賛成している。(阿部委員長:医療秘書科・診療情報管理士科)
- ・介護現場は人手不足が根強いので、ネパール人やベトナム人など留学生を特定技能制度にて採用しているが、優秀な人材が多い印象を受けている。(佐々木委員:介護福祉科)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・学校に求める質の担保について三幸学園のブランドが確立されていると感じている。
 実際の現場でも学校教育においても人材育成やITツールの活用、募集など抱えている問題や課題には共通点があるので、引き続き連携を図りながら、双方の活性化に繋がるよう取り組んでいきたい。
- メンタル的に不調を抱える学生が増えたことにより、勉強を教えることよりもメンタルケアにウェイトがおかれているように感じるため、入学した生徒が知識、技能を習得し、目標としているなりたい自分を実現できるように今後もより良い教育を提供してほしい。（阿部委員長：医療秘書科・診療情報管理士科）
- ・本校では、学校自己評価を組織的かつ継続的に実施する体制を整え、教育活動や生徒支援、学校運営の質の向上を図ってきた。各項目の自己点検を行うことにより、現状の強みと課題を的確に把握し、次年度に向けた改善策を明確にすることができた点は大きな成果である。また、学校関係者評価委員会を通じて、外部の意見や期待を受け止める機会を設けたことで、自己評価の客観性と妥当性を高めることにもつながった。（真田副校長）